

# 知的障がいのある子供の個別最適な学びと協働的な学びを 提供する授業の在り方（1年次／3年） －現状調査と「授業デザインシート（試案）」の作成－

大分県教育センター特別支援教育部  
指導主事 新納 梨香

## I 調査研究の背景と目的

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月26日付 中央教育審議会）において、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現が示された。子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供を行う「指導の個別化」と子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が自己の学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」が必要であり、これを学習者の視点から整理したものが個別最適な学びであるとされている。また、探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働しながら学ぶ協働的な学びを充実させることも重要とされ、これらを一体的に充実させていくことが示されている。

知的障がい特別支援学校では、従来から「個に応じた指導」を展開しているが、これは教師からの視点で捉えたものであり、前述の答申で示されている学習者の視点で「個に応じた指導」を捉え直した個別最適な学びを充実させる必要がある。また、個別最適な学びが「孤立した学び」に陥らないよう、協働的な学びを充実させることも知的障がいの児童生徒にとって非常に重要である。しかし、知的障がい教育において授業の中で個別最適な学びと協働的な学びを展開していく具体的な方法については明らかになっていない。また、大分県の知的障がい特別支援学校における取組の現状についても明らかになっていない。

そこで本調査研究の目的は、県内知的障がい特別支援学校における個別最適な学びと協働的な学びの提供に関する現状調査を行い、教員の意識や取組の実態、課題を明らかにする。さらに個別最適な学びと協働的な学びの充実を研究主題において研究している先進校の取組を参考にし、大分県の知的障がい教育における授業づくりの方策を示すための「知的障がい教育における個別最適な学びと協働的な学びを充実させる授業デザインシート（試案）」（以下、「授業デザインシート（試案）」）を作成することとする。

## II 調査研究の方法

### 1 現状調査

県内知的障がい特別支援学校における個別最適な学びと協働的な学びへの教員の意識や授業実践での取組の現状把握を目的として、アンケート調査を行った。

#### 1-1 調査の対象

県内知的障がい特別支援学校 14 校（県立校 13 校、大学附属校 1 校）の学部主事 40 名（小学部 13

## 大分県教育センター特別支援教育部

名、中学部 13 名、高等部 14 名)

### 1-2 調査の方法

本教育センターで開催した「特別支援学校学部主事研修」で事前にアンケート調査を行った。アンケート調査紙を回答者へ送付し、Word データへの直接入力、又は Google フォームのいずれかで回答、回収を行った。

### 1-3 調査の内容

アンケート調査紙（別添資料 1）の設問内容や回答方法を下記に示す。

設問	設問内容	回答方法
設問 1	個別最適な学びと協働的な学びを充実させるために現在、優先的に取組んでいる事項	共通意識や授業イメージ、児童生徒の目標や指導方法、学びの段階、実態や特性の共通理解、学習形態の工夫に関する 7 項目とその他から選択して回答(複数回答可)
設問 2	個別最適な学びを実践する上での重要度 ①生活経験や興味関心に応じた題材や教材の設定 ②障がいの状態に応じた指導方法や教具の設定 ③学習上の困難に応じた学習時間や学習速度、学習量に応じた指導方法の設定	「全く重要ではない」「あまり重要ではない」「どちらともいえない」「少し重要である」「とても重要である」「非常に重要である」の 6 段階と「わからない」から選択して回答
設問 3	上記以外の重要なこと	自由記述
設問 4	協働的な学びを実践する上での重要度<学習活動> ①実際の生活場面などを想定した体験活動 ②お互いの意見を交換したりする話し合い活動 ③校内外の人的資源を活用して、一緒にする活動	「全く重要ではない」「あまり重要ではない」「どちらともいえない」「少し重要である」「とても重要である」「非常に重要である」の 6 段階と「わからない」から選択して回答
設問 5	協働的な学びを実践する上での重要度<学びの設定> ①集団の中で全員が同じ目的で活動する ②自分の役割を理解したりできることをみつけたりする ③他者の考えや視点、やり方を理解したり共有したりする	
設問 6	上記以外の重要なこと	自由記述
設問 7	個別最適な学びと協働的な学びを充実させる上での課題と課題に対する今後の取組	自由記述

調査結果について、問 2、問 4、問 5 は、「全く重要ではない」（1 点）～「非常に重要である」（6 点）の 6 件法を用い、得られた得点を点数化し、設問の項目ごとに平均点を算出した。

## 2 先進校視察

先進校の取組を知的障がい教育における授業づくりの参考とすることを目的に行った。

### 2-1 視察の対象

個別最適な学びと協働的な学びの充実を研究主題として研究を進めている県外の知的障がい特別支援学校 2 校（以下、A 特別支援学校、B 特別支援学校と記載）を選定した。

### 2-2 視察の方法

令和 7 年 9 月に先進校 2 校において授業観察を行ったのち、校内研究の概要と観察した授業について、各校の教頭、研究主任、学部主事に聞き取りを実施した。

## 知的障がいのある子どもの個別最適な学びと協働的な学びを提供する授業の在り方

### Ⅲ 結果と考察

#### 1 現状調査の結果と考察

##### 1-1 回収率

調査対象者数 40 人のうち、全員から回答が得られ、回収率は 100%であった。

##### 1-2 個別最適な学びと協働的な学びの充実のための優先的取組項目について

現在個別最適な学びと協働的な学びの充実のために優先的に取組んでいる事項の結果を表 1 に示した。表 1 より、「学習する内容等によって学習形態を工夫している」の回答数は 35 で、回答者に占める割合は 87.5%で最も高かった。一方、他の項目については、10.0%～35.0%と低かった。特に「個別最適な学びと協働的な学びについての共通の意識を持っている」が 12.5%、「授業イメージを持って取組んでいる」が 10.0%と顕著に低い結果となった。

表 1 優先的取組項目 について(n=40)

	回答数	割合 (%)
「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために学習する内容等によって、集団、個別などの学習形態を工夫している	35	87.5
「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために児童生徒の実態や特性（障害特性、学び方の特性などを含む）を共通理解している	14	35.0
「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために教員間で児童生徒の目標や指導方法などの共通理解をしている	12	30.0
「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために児童生徒の学びの段階を共通理解している	10	25.0
「個別最適な学びとは」「協働的な学びとは」について学部で共通の意識を持って取組んでいる	5	12.5
「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させた授業イメージを持って取組んでいる	4	10.0
その他	0	0

また、別紙資料 2 の表 7 に示す個別最適な学びと協働的な学びを充実させる上での学部の課題についての自由記述では、個別最適な学びや協働的な学びについて教員間で理解し、共通の意識を持つことについての意見がみられた。これらのことから、学習内容等によって、学習形態の工夫はしているものの、拠り所となる個別最適な学びと協働的な学びについての定義がなく、授業レベルで具体的な共通の意識を持つことや教員間で共通の授業イメージを持って取組むことが十分にできていないことが推察される。

##### 1-3 個別最適な学びの実践上の重要度について

個別最適な学びを実践する上での重要度について、項目ごとの回答数と平均点を別添資料 2 の表 2 に示した。表 2 より平均点は、「個の障がいの状態に応じた指導方法や教具の設定」が 5.4 と最も高く、その他の項目でも 5.0～5.3 と大きな差はみられなかった。このことから、授業構想段階で個の生活経験や興味関心、障がいの状態に応じた指導方法や教材教具などの設定、学習上の困難に応じた学習時間や速度などに応じた指導方法の設定、キャリア形成の方向性に応じた指導内容の設定をすることを意識していることが分かる。

##### 1-4 協働的な学びの実践上の重要度について

協働的な学びの学習活動に関する重要度について、項目ごとの回答数と平均点を別添資料 2 の表 4 に示した。表 4 より平均点は、「実際の生活場面などを想定した体験活動」は 5.4、「お互いの意見を交換したりする話し合い活動」は 5.0 であり、「校内外の人的資源を活用して、一緒にする活動」は 4.6 とやや低かった。また、別紙資料 2 の表 7 に示す個別最適な学びと協働的な学びを充実させる上での学部の課題についての自由記述では、協働的な学びの設定について、校内外の人的・物的資源の活用について課題があるとの意見がみられた。このことから他者と共に活動することは重要と認識しているものの、誰と一緒に活動するのかという協働する相手について意識して授業を構想することが

できていないことが分かる。

また、協働的な学びの設定に関して、別添資料2の表7よりコミュニケーションや他者とのかかわりに困難のある児童生徒の協働的な活動への取組に関することや言語表出に困難のある児童生徒が協働的な活動の場面で思いを表出するための取組に関することについての意見がみられた。協働的な学びが、他者の様子を見る、道具や場面の共有などの言語コミュニケーションを伴わない活動から意見を出し合い、一緒に試行錯誤する活動までの幅広い活動のことを示すという捉え直しが必要である。

一方、協働的な学びの学びの設定に関する重要度について、項目ごとの回答数と平均点を別添資料2の表5に示した。表5より平均点は、「集団の中で自分の役割を理解したりできることを見つけたりすること」が5.2、「集団の中で他者の考えや視点、やり方を理解したり共有したりすること」が5.1となっている。それに比べ、「集団の中で全員が同じ目的で活動すること」は4.5でやや低くなっている。集団の中での個別の役割や他者とのかかわり方について重要視している一方で、共通の目的を持って活動することはそれほど重要視していないことが分かる。名古屋（2022）は著書の中で、「集団化とは、単に集団活動や一斉指導を行うということではなく、仲間がともに生活のテーマを共有し、そのテーマ実現のために誰もが持てる力を発揮し、満足感・成就感を分かち合う姿をさす」と述べている。このことから、目的やテーマ、教材を共有することは、協働的な学びには重要であり、共通認識とする必要があると考えられる。

#### 1-5 アンケート調査のまとめ

アンケート調査の結果から、県内知的障がい特別支援学校における課題が3点見えてきた。

- ①教員間で個別最適な学びと協働的な学びについての定義がなく、授業レベルで具体的な共通の意識を持つことや教員間で共通の授業イメージを持って取組むことが十分にできていない。
- ②協働的な学びの活動の選択肢が少なく、児童生徒の個を生かすことのできる活動、協働する相手などの設定が十分でない。
- ③協働的な学びにおいて、目的やテーマの設定の仕方やそれを集団の中で共通のものとするものの意識が持っていない。

以上の点が十分に行われれば、個別最適な学びと協働的な学びが充実し、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」が促進され、資質・能力の育成につながると考えられる。

## 2 先進校視察の結果と考察

### 2-1 A 特別支援学校

自校の個別最適な学びと協働的な学びの捉え方を「授業づくりの際に大切にする子どもの姿」として示していた。協働的な学びの中でどのように個別最適な学びを保障するかという考え方で、授業づくりを進めており、指導の個別化の観点から児童生徒の学びの段階を把握することとし、学習指導要領に示されている各教科の内容の段階をもとにした独自の実態調査表を活用している。また、個別最適な学びと協働的な学びのための授業づくりの流れを示し、その中にポイントや留意点が整理され、教員間で共有している。

#### 2-1-1 個別最適な学びに関して

学習の個性化のための工夫として、授業の中で児童生徒自身のやりたい活動や使いたい教具、自分に合ったやり方を選択する場面を設定している。児童生徒の生活上の興味関心、認知特性、過去の有効な指導を把握し、その上で、児童生徒自身が自己選択できるよう、教材教具は複数を使用することを想定して作製し、授業に臨んでいた。このことから、児童生徒が最適な学び方を自己選択・調整す

## 知的障がいのある子どもの個別最適な学びと協働的な学びを提供する授業の在り方

ることを促すためには、教師側の児童生徒の最適な学びを把握する視点が共通化され、複数を想定した準備が必要不可欠と考えられる。

### 2-1-2 協働的な学びに関して

実態差のある集団で活動することが想定されるので、「宅配便をしよう」というテーマのもとで数学科「測定・重さ」の学習に取り組むなど授業の柱となるテーマを設定したり、学習集団全員に共通するキーワードを使用して課題を伝えたり認めをしたりしている。このことは、児童生徒同士のかかわりや認め合いを促していた。よって、同一のテーマが設定されることで、多様な学びの実態がある児童生徒各々のできることや分かることを持ち寄り、活動する場面が必然的に設定されることが期待される。

また、活動の設定については、児童生徒の引き出したい姿をイメージし、その姿を引き出すための活動として5つの活動場面を示して授業構想をしていた。具体的な活動を示し、その中から選択したり、変化させたりすることで、授業者は児童生徒の具体的な活動をイメージしやすくなり、協働的な学びが体験活動や話し合い活動に偏ることなく設定できるのではないかと考えられる。

### 2-2 B特別支援学校

「指導の個別化」「学習の個性化」を自校で定義づけ、共通理解して授業実践に取り組んでいる。児童生徒の学習の到達度や学び方の特性、キャリア形成について把握し、ICTを活用してシステム化、共有化している。

#### 2-2-1 個別最適な学びに関して

学習の個性化について、児童生徒の「やってみたい」「なりたい自分」をキャリア形成と捉え、それを教師が適切に把握、共通理解し、小学部段階から児童生徒のキャリア形成の方向性に応じた学習活動や課題を設定していた。また、キャリア形成の方向性に応じた学習活動や課題の設定のために、児童生徒の「やってみたい」内容を授業に取り入れ、それを達成する場面を設定している。そうすることで、児童生徒の「やりたい」の深化を促しながら、自己の「できること」「わかること」を理解し、できる方法を自己選択して学ぶことをめざしている。これらのことは、児童生徒の最適な学びの自己選択・調整につながると考えられる。

### 2-3 先進校視察のまとめ

先進校2校の取組の中から本県の課題となる点に対して、授業づくりの際に参考としたい先進的取組は、以下の⑦～⑨の3点である。

- ⑦児童生徒のキャリア形成を「やってみたい」「なりたい自分」と捉え、適切に把握し、小学部段階から児童生徒のキャリア形成の方向性に応じた学習活動や課題を設定している。
- ⑧児童生徒の最適な学び方を把握し、児童生徒自身で自己選択できるよう教材、教具などを複数準備している。
- ⑨児童生徒の引き出したい協働的な学びの姿をイメージし、その姿を引き出すための活動を具体的に示し、授業構想段階で選択できるようにしている。

## IV「授業デザインシート（試案）」の作成

### 1「授業デザインシート（試案）」作成の方法

アンケート調査で得られた県内知的障がい特別支援学校での現状と課題を踏まえ、先進校視察での結果を反映させて11月～12月に「授業デザインシート（試案）」の作成を行った。

### 2「授業デザインシート（試案）」の概要

## 大分県教育センター特別支援教育部

「授業デザインシート（試案）」は別添資料3で示す。このシートは、個別最適な学びと協働的な学びを充実させるために欠く事のできない項目を「指導の個別化」「学習の個性化」「協働的な学び」に分けてチェック項目として整理し、A3判1枚の紙面に示したものである。このシートをもとに授業を構想し、項目をチェックすることで個別最適な学びと協働的な学びの充実が成されるように構成している。

### 3 「授業デザインシート（試案）」のポイント

県内知的障がい特別支援学校の現状から見えてきた課題を解決するため、参考としたい先進校の取組を踏まえて整理したチェック項目の6つのポイントを以下に示す。

- ①個別最適な学びと協働的な学びの捉え方について、県内知的障がい特別支援学校では、教員間で個別最適な学びと協働的な学びの意識や授業イメージの共有が十分に行われていないという課題があることから、先進校2校のように個別最適な学びと協働的な学びを定義づける必要があると考え、図式化して示した。[課題①に対応]
- ②指導内容の設定や児童生徒の最適な学び方の選択・調整について、児童生徒の「やってみたい」「なりたい」の把握の視点を示した。[先進的取組⑦に対応]
- ③児童生徒が自己の最適な学びを選択・調整して取り組むために「児童生徒の最適な学び（教材、教具、支援方法）の選択や調整を支える」と項目を立てた。自己の理解に困難さがみられる知的障がいの児童生徒が最適な学び方を選択するには、教師の児童生徒の学び方の特性や有効な指導方法、興味関心、キャリア形成の適切な把握が必要であり、それらに応じて学習活動や課題、教具などを複数準備することや児童生徒の「個」に応じた選択・調整になるために合意形成をすることを選択・調整の視点として示した。[先進的取組④に対応]
- ④最適な学び方の異なる児童生徒が協働的に学ぶためには、共通のテーマが必要である。そこで、「協働的な学びは共通のテーマのもと展開される活動」と位置づけ、共通のテーマを授業展開の柱として設定するようにした。[課題③に対応]
- ⑤協働的な学びの活動場面を示しているA特別支援学校の取組を参考に、言語コミュニケーションを伴わない活動から話し合い活動までを含む6つの協働的に学ぶ活動場面の例を示した。これにより、「個」のできる状況に応じた協働的な学びの具体的なイメージを持つことができる。[課題②、先進的取組⑦に対応]
- ⑥協働的に学ぶ活動の中で、誰と協働するのかを検討する機会が必要である。そこで、協働する相手の検討とその際の例を示した。[課題②に対応]

## V 成果と課題

成果としてアンケート調査より、「教員間で個別最適な学びや協働的な学びの定義がなく、共通の意識や授業イメージの共有が十分でない」「協働的な学びの活動の選択肢が少なく、児童生徒の個を生かすことのできる活動、協働する相手などの設定が十分でない」「協働的な学びにおいて、目的やテーマの設定の仕方やそれを共通のものとする意識が持っていない」という県内知的障がい特別支援学校での課題が明らかとなった。また先進校視察においては、「児童生徒のキャリア形成を適切に把握し、児童生徒のキャリア形成の方向性に応じた学習活動や課題を設定すること」「児童生徒の最適な学び方を把握し、児童生徒自身で自己選択できるよう教材、教具などを複数で準備すること」「児童生徒の引き出したい協働的な学びの姿をイメージし、そのための活動

## 知的障がいのある子どもの個別最適な学びと協働的な学びを提供する授業の在り方

を具体的に示し、選択できるようにすること」が本県の知的障がい教育の授業づくりにおいて参考となるものであった。そして、これらをもとに、授業構想段階での活用を目的とした「授業デザインシート（試案）」の作成をすることができ、ホームページにも公開することができた。

今後の課題として、以下の2点の充実を図る必要がある。1点目は、「授業デザインシート（試案）」を活用した授業実践を行い、授業者から意見を収集し、「授業デザインシート（試案）」の有効性や内容を精査し、さらに良いものにしていきたい。2点目に個別最適な学びと協働的な学びの授業実践事例を蓄積し、個別最適な学びと協働的な学びが提供された授業の好事例をホームページで周知したい。これらの充実により、個別最適な学びと協働的な学びの提供された授業イメージの浸透が図られることを期待したい。

## VI 参考文献

- ・中央教育審議会 2021 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）
- ・名古屋恒彦著 2022 知的障がい教育における個別最適な学び協働的な学び 東洋館出版社
- ・増田謙太郎著 2022 学びのユニバーサルデザインと個別最適な学び 明治図書
- ・群馬大学共同教育学部附属特別支援学校 令和4～5年度 研究実践報告「子どもが自ら考え学び合う授業実践」
- ・宮城教育大学附属特別支援学校 令和3～5年度研究紀要「個別最適な学びの実現を目指した授業づくり」

## 【別添資料1】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の提供に関するアンケート調査紙

## 資料 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の提供に関する現状アンケート調査

## 1 アンケート調査用紙

特別支援学校学部主事研修事前アンケート

学校名 ( ) 学部 ( )

Q1. 担当学部において、「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させるために優先的に取組んでいることを選んでください。＜複数回答可＞

- る
- (A) 「個別最適な学びとは」「協働的な学びとは」について学部で共通の意識を持って取組んでいる。
- (B) 「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させた授業のイメージを持って取組んでいる
- (C) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために教員間で児童生徒の目標や指導方法などの共通理解をしている
- (D) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために児童生徒の学びの段階を共通理解している
- (E) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために児童生徒の実態や特性（障害特性、学び方の特性などを含む）を共通理解している
- (F) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために学習する内容等によって、集団、個別などの学習形態を工夫している
- (G) その他 ( )

回答欄

Q2. 担当学部の授業において「個別最適な学び」を実践する上で、次の①～④に関して重要度を教えてください。

	全く重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	少し重要である	とても重要である	非常に重要である	わからない
<回答例> 個の生活課題に応じた題材や教材の設定		○					
①個の生活経験や興味関心に応じた題材や教材の設定 (例：児童生徒の生活上の課題や興味関心を扱って授業をする等)							
②個の障がいの状態に応じた指導方法や教具の設定 (例：児童生徒の操作レベルに合わせた教具の使用等)							
③個の学習上の困難に応じた学習時間や学習速度、学習量に応じた指導方法の設定 (例：児童生徒の集中や注意の持続、学ばずスピード、学べる量、得意な学び方の活用などに配慮する等)							
④個のキャリア形成の段階に応じた指導内容の設定 (例：児童生徒のなりたい自分やしたいことに応じた指導内容等)							

Q3. Q2でお聞きした①～④以外に重要だと考えるものがあれば、下欄にご記入ください。

--

Q4. 担当学部の授業において、「協働的な学び」を実践する上で、次にあげる①～③の学習活動について重要度を教えてください。

	全く重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	少し重要である	とても重要である	非常に重要である	わからない
①実際の生活場面などを想定した体験活動 (例：児童生徒が実際に操作したり観察したり体験したりする等)							
②お互いの意見を交換したりする話し合い活動 (例：結論をみない対話、成果物などの見せ合い等)							
③校内外の人的資源を活用して、一緒にする活動 (例：ゲストティーチャー、学年、学部間の交流等)							

Q5. 担当学部の授業において「協働的な学び」を実践する上で、次にあげる①～③の学びの設定の重要度を教えてください。

	全く重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	少し重要である	とても重要である	非常に重要である	わからない
①集団の中で全員が同じ目的で活動すること (例：共通の目的(テーマ)で分担したり、交替したり、同一のことをしたりする等)							
②集団の中で自分の役割を理解したりできることを見つけたりすること							
③集団の中で他者の考えや視点、やり方を理解したり共有したりすること							

Q6. Q4、Q5でお聞きしたこと以外に「協働的な学び」で重要だと考えるものがあれば、下欄にご記入ください。

--

Q7. 担当学部の1学期の授業実践を振り返って、①「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させる上で、今の学部の課題は何ですか。また、②今後課題に向けて取組もうと考えていることは何ですか。下欄にご記入ください。

①課題	
②今後の取組み	

## 【別添資料2】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の提供に関するアンケート調査及び回答結果

## 1 回収率

調査対象者数 40 人の内、全員から回答が得られ、回収率は 100%であった。

## 2 回答の状況

(問1) 担当学部において、「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させるために優先的に取組んでいることを選んでください。＜複数回答可＞

表1 優先取組項目の回答数と割合(n=40)

	回答数	割合 (%)
「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために学習する内容等によって、集団、個別などの学習形態を工夫している	35	87.5
「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために児童生徒の実態や特性(障害特性、学び方の特性などを含む)を共通理解している	14	35.0
「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために教員間で児童生徒の目標や指導方法などの共通理解をしている	12	30.0
「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために児童生徒の学びの段階を共通理解している	10	25.0
「個別最適な学びとは」「協働的な学びとは」について学部で共通の意識を持って取組んでいる	5	12.5
「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させた授業イメージを持って取組んでいる	4	10.0
その他	0	0

(問2) 担当学部の授業において「個別最適な学び」を実践する上で、次の①～④に関して重要度を教えてください。

「全く重要ではない」(1点)～「非常に重要である」(6点)の6件法を用い、得られた得点を点数化し、平均点を算出した。

表2 「個別最適な学び」の実施上の重要度の回答数(n=40)と平均点

	全く重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	少し重要である	とても重要である	非常に重要である	わからない	平均点
個の障がいの状態に応じた指導方法や教具の設定	0	0	0	0	26	14	0	5.4
個の生活経験や興味関心に応じた題材や教材の設定	0	0	0	2	23	15	0	5.3
個の学習上の困難に応じた学習時間や学習速度、学習量に応じた指導方法の設定	0	0	0	3	24	13	0	5.3
個のキャリア形成の段階に応じた指導内容の設定	0	0	2	7	20	11	0	5.0

【別添資料2】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の提供に関するアンケート調査及び回答結果

(問3) 問2でお聞きしたものの以外に重要だと考えるものがあれば記入ください。(自由記述)

表3 「個別最適な学び」の実施上重要としていること(選択肢外自由記述)

項目	記述内容
児童生徒の実態把握	・児童生徒の実態を把握するためのアセスメント ・個々の興味関心、得意な面、将来への夢などを総合的に把握する
教員間の共通理解	・全体活動時、グループ、個別それぞれの目標 ・学習経験、学びの到達状況に応じた学習内容
場面設定	・学んだことを発揮したり発展させたりする場面

(問4) 担当学部の授業において、「協働的な学び」を実践する上で、次にあげる①～③の学習活動について重要度を教えてください。

「全く重要ではない」(1点)～「非常に重要である」(6点)の6件法を用い、得られた得点を点数化し、平均点を算出した。

表4 「協働的な学び」の実施上の学習活動に関する重要度の回答数(n=40)と平均点

	全く重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	少し重要である	とても重要である	非常に重要である	わからない	平均点
実際の生活場面などを想定した体験活動	0	0	0	1	24	15	0	5.4
お互いの意見を交換したりする話し合い活動	0	0	0	4	25	10	1	5.0
校内外の人的資源を活用して、一緒にする活動	0	1	3	12	20	4	0	4.6

(問5) 担当学部の授業において、「協働的な学び」を実践する上で、次にあげる①～③の学びの設定について重要度を教えてください。

「全く重要ではない」(1点)～「非常に重要である」(6点)の6件法を用い、得られた得点を点数化し、平均点を算出した。

表5 「協働的な学び」の実施上の学びの設定に関する重要度の回答数(n=40)と平均点

	全く重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	少し重要である	とても重要である	非常に重要である	わからない	平均点
集団の中で自分の役割を理解したりできることを見つけたりすること	0	0	0	6	21	13	0	5.2
集団の中で他者の考えや視点、やり方を理解したり共有したりすること	0	0	0	6	24	10	0	5.1
集団の中で全員が同じ目的で活動すること	0	1	5	12	17	5	0	4.5

## 【別添資料2】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の提供に関するアンケート調査及び回答結果

(問6) 問4、5でお聞きしたものの以外に重要だと考えるものがあれば記入ください。(自由記述)

表6 「協働的な学び」の実施上重要としていること(選択肢外自由記述)

項目	記述内容
学びの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が集団の中でリーダーシップをとること</li> <li>自らの意見や考えを他者に伝えること</li> <li>他者の意見を聞く雰囲気</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれの学習活動にも参加が困難な場合の学習保障</li> <li>協働的な活動の中での教師の立ち場や問いかけなど</li> </ul>

(問7) 担当学部の1学期の授業実践を振り返って、①「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させる上で、今の学部の課題は何ですか。また、②今後課題に向けて取組もうと考えていることは何ですか。(自由記述)

表7 個別最適な学びと協働的な学びを充実する上での学部の課題についての回答(自由記述)

項目	学部の課題
教員間の共通認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の興味、段階等の実態や目標などについての学部、学年部内の教員の共通理解</li> <li>各教科、題材に応じて、または題材の展開において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の比重を職員間で共有すること。</li> <li>チームティーチングを行う上での、指導方針や支援方法の共通理解</li> <li>学習集団の中での、個の実態や特性、個に応じた目標や指導方法の共通理解</li> <li>全員一致の共通理解</li> <li>「個別最適な学び」や「協働的な学び」について、学部内で共通の意識を持つこと</li> <li>授業者間の生徒の実態の共有</li> <li>「個別最適な学び」「協働的な学び」についての共通理解</li> </ul>
実態の見取りや捉え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態の捉えが異なることのないような実態把握</li> <li>個の障がいの状態に応じた指導方法や教具の設定、個の学習上の困難に応じた学習時間や学習速度、学習量に応じた指導方法の設定について</li> <li>到達像を具体的に描き、学びの姿を見取りながら対応していくこと。</li> <li>生徒の認知面や学びの特性等、実態から考える視点が薄れている</li> </ul>
最適な学習内容や目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の大きさや実態の差によって目標や学習内容が「個」の最適からずれてしまう</li> <li>個別のめあてが最適であったか。それを達成できる学習になっていたか。</li> <li>目標や教材、学習活動、教具が個の障がいの程度や特性、生活経験に応じたものになっていない</li> <li>習熟度に応じたグループ編成で実施しているが、実態の幅が広くいため課題の焦点化が難しい。</li> <li>生活に結びついた生徒が必要を感じる活動、体験の設定がなかなかできていないこと</li> <li>キャリア形成につながる指導</li> </ul>
最適な学びの場や学び方の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、題材に応じて、または題材の展開において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の比重を整理すること。</li> <li>協働的な学びの中での一人一人の動きや集団での動き</li> <li>個別と協働のバランスが難しい。</li> <li>指導内容が異なるが、同グループ・同題材で授業を組む際の学び方</li> <li>教科の学習(理科、社会)で最適な学びの場が設定できていない。</li> <li>学習する内容や教科によってグループ別の学習形態をとっているが、グループに分ける際の適切な基準の設定やグループ内での個別配慮のあり方に課題がある。</li> <li>生徒の実態や生徒数、教員数の兼ね合いの中から、最適な学び方を工夫しているが、難しさも感じている。</li> </ul>

## 【別添資料2】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の提供に関するアンケート調査及び回答結果

協働的な学びの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「協働的な学び」を授業の中で設定できていない場合がある。</li> <li>・コミュニケーションに課題を持っている生徒や他者との関わりが苦手な生徒が多く、グループ活動やペア学習では教師の介入が必要となる場面も多く、主体的な学習につながりにくい。</li> <li>・学校内外の児童・生徒や人々と学習する機会はあるが、互いの考え方を組み合わせるような指導・支援には至っていない。</li> <li>・対話的な学びを促すために話し合いの場をもうけているが、言語表出に課題のある生徒も多く、自分の思いや考えをうまく言語化できないことで、話し合いが一方的または形式的なものになりがちである。</li> <li>・校内外の人的・物的資源の活用</li> </ul>
関すること 編成に 教育課程の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導段階表や題材配列表を活用した系統的な取組</li> <li>・授業実践の際に混乱の生じない教育課程の整理</li> </ul>

# 知的障がい教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる授業デザインシート（試案）

## 1. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の定義

### 個別最適な学び

従来の「個に応じた指導」を学習者の視点で捉え直し、**指導の個別化**と**学習の個性化**の2つの柱で児童生徒の学びを考えること。

**◆指導の個別化**  
児童生徒の生活上の課題や特性、学習進度を把握し、**教師が個々の状態に応じて指導内容や教材、指導方法を柔軟に設定・提供**すること。

**◆学習の個性化**  
児童生徒個々の興味・関心やキャリア形成（なりたい自分）に応じた学習活動や課題を設定し、**児童生徒自身が個々の最適な学び方を選択・調整<sup>\*1</sup>して取り組む**こと。

\*1「児童生徒自身が～選択・調整」…個々の学びの特性をもとに教師が複数の選択肢を準備し、個々の最適な学び方について児童生徒と話し合い、合意形成しながら柔軟に変更すること

### 協働的な学び

**テーマ<sup>\*2</sup>を共有しながら活動し、他者とのかわりの中で児童生徒それぞれの目標に向かい、達成感や成就感を分かち合う**こと。  
\*2「テーマ」…題材（単元）で設定した教材や学びの動機になる事柄のこと

**【想定される活動例】**

[活動①]様子や成果物を見せ合う  
[活動③]友だちの様子を知る  
[活動⑤]自分たちで判断する

[活動②]道具や状況を共有する  
[活動④]意見を伝え合う  
[活動⑥]共に試したり、確認したりする など

「協働」の学びの中で「個別」の学びに取り組み、活かす

一体的な充実

## 2. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるための授業デザインチェック [各チェック項目で、把握・検討・設定できているかチェックしましょう!]

### 指導目標の設定

題材（単元）を通して、どのような力を身に付けてほしいのか、題材（単元）終了時に何ができるようになっているのかを具体的に設定

### 学習の個性化

＜ 指導の個別化 ＞

学習の到達度の把握

指導する内容について、既習の内容などを把握し、『特別支援学校学習指導要領』に示されている内容を段階で確認

【学びの到達度を把握する視点】  
「状況を問わずできること」「もう少ししてできること」「支援があればできること」「できないこと」の視点でチェック

学び方の特性の把握

児童生徒の学びのきっかけとなる興味・関心、得意なことを把握  
 児童生徒の障がいの状態、経験の程度、学び取り方を把握（ことばの発達、記憶・情報処理・コミュニケーションの方法、生活経験など）  
 過去に有効であった支援の方法

＜ 学習の個性化 ＞

児童生徒の「わかる」「できる」の把握

児童生徒の好きなこと・できることを把握  
 児童生徒自身が得意としていることを把握（特技だけでなく、理解しやすい方法など）

児童生徒の「やってみよう」の把握

児童生徒の生活上の知りたいこと・挑戦したいことを把握（未経験を含む）  
 児童生徒のキャリア形成（やってみようこと・なりたい自分）を把握  
 児童生徒の知りたいこと・挑戦したいことに関して、すでに知っている（経験している）ことを把握

### 協働的な学び

共通のテーマのもと、展開される学習活動

共通テーマの設定

学習集団の興味・関心に沿ったもの  
 学習集団の生活上の課題に沿ったもの  
 学習集団全体で解決する課題に合ったもの

達成目標の設定

テーマに沿って学習集団として、テーマを達成した姿を具体的にイメージ  
 達成目標の「個」への提示の仕方を検討

協働的に学ぶ活動の設定

引き出したい児童生徒が協働的に学ぶ活動を設定

活動例

[活動①]様子や成果物を見せ合う  
[活動②]道具や状況を共有する  
[活動③]他者の様子を知る  
[活動④]意見を伝え合う  
[活動⑤]自分たちで判断する  
[活動⑥]共に試したり、確認したりする など

「個」と「個」がどのように関わるのかを想定  
 どのような考えや姿が交わるのかを想定

協働する相手の検討

校内外の多様な人的資源の活用（先輩、後輩、友だち、教師、近隣の学校、近隣の方、専門家など）

達成感や成就感を分かち合うための支援方法の検討

「個」の学び方や考え方を踏まえたもの  
 “分かち合う”思いやそのタイミングの想定

児童生徒の協働する学びの姿や“分かち合う”思いを授業者間で共有

「個」のできる状況<sup>\*6</sup>を設定

\*6「できる状況」とは、目的達成のために最後まで精いっぱい取り組むこと

「集団」での学び<sup>\*7</sup>を生かす

\*7「集団での学び」とは、「集団」で感じた思い、達成したこと、達成へ向けての仕方・考え方などのこと